

第5回「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」

実施報告書



後列左より:土屋総務委員、秋田審査委員、大塚審査委員長、菊川実行委員長、
杉山様(全日本空輸株式会社ジャカルタ支店)、Verawati 実行副委員長、釜我様(BINA
NUSANTARA 大学)、アーロ先生・リナ先生(PAKUAN BOGOR 大学)

前列左より入賞者 5 名:ANDRIANI ANJASUMA PUTRI、ADELINE AURELIA TAN、KIKY INDRAWATI
OKTOVIANI、HASHINA SARI、MEILIANI

- 【開催日】 2018 年 9 月 8 日(土) 予選会 12:00～ 本選会 13:50～
- 【会場】 AYANA Midplaza JAKARTA
- 【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団
- 【現地運営団体】 COACH
- 【後援】 日本国文部科学省
在インドネシア日本国大使館
全日本空輸株式会社ジャカルタ支店
- 【協賛】 株式会社 共立メンテナンス

<総評>

2014 年より始まった「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」は、2018 年度で第 5 回目を迎えました。

第 5 回「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」は 9 月 8 日(土)インドネシア・ジャカルタ市の AYANA Midplaza JAKARTA にて開催されました。会場には昨年度の入賞者をはじめ、多くの観客の皆様にお越しいただき、このコンテストを取り巻く輪が広がっていることを実感いたしました。

一次予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などの幅広い分野から、聞き取り問題 30 問が出題されました。コンテスト参加申込者は 74 名と多くの方に興味を持っていただいた様子でしたが、当日の参加者は欠席者もあり 44 名に落ち着きました。

その後予選会を通過した 14 名が、本選会の 3 分間即興スピーチに進みました。本選会の即興スピーチでは、その場に出された 3 つの課題、

①あなたが日本語を勉強していて難しいと感じる文法(もしくは表現)はなんですか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。

②あなたが日本語を勉強しようと思ったきっかけは何ですか。エピソードを交えて話してください。

③あなたの国と日本の文化・習慣で、大きく違う点は何だと思えますか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。

というテーマから 1 つを選択し、5 分間のシンキングタイムの後、3 分間の即興スピーチを行いました。テーマ①を選択した人は 3 名、テーマ②を選択した人は 6 名、テーマ③を選択した人は 5 人となり、全体的にバランス良くテーマが分散され、日本語を学ぶ中での様々な気づきや、自身の母語と比較しながら勉強している様子が見え、結果となりました。

そして、審査委員 3 名による審査の結果、入賞者 5 名が選ばれ、賞状と賞品目録が授与されました。

入賞賞品としては、2019 年 1 月 20 日(日)～1 月 27 日(日)(7 泊 8 日 1 泊機内泊)の日程で、日本体験旅行に参加する権利を与えられました。

この日本体験旅行で日本の生活や文化を体験し、日本留学の夢を実現する為の旅行にしてみたい、さらなる日本への興味、理解を深めてもらいたいと思います。

<実施報告>

■ 予選会

予選会	12:00～	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選会 (日本語聞き取り問題 30 問)

日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題 30 問



受付の様子



応募総数 74 名中、44 名が参加
一次予選(聞き取り問題)に挑戦

一次予選成績上位者 14 名が本選会へと進みました！

■ 本選会

本選会	13:40～13:50	予選通過者発表
	13:50～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	14:00～14:05	シンキングタイム
	14:05～	スピーチ

スピーチ課題

①あなたが日本語を勉強していて難しいと感じる文法(もしくは表現)はなんですか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。

②あなたが日本語を勉強しようと思ったきっかけは何ですか。エピソードを交えて話してください。

③あなたの国と日本の文化・習慣で、大きく違う点は何だと思えますか。具体的な理由や例を挙げて、話してください。



テーマ①では、漢字や敬語の使い方の難しさ、日本らしい表現と自国の表現との違いを常に意識しながら学びに励んでいる様子が見られました。

また、テーマ②ではアニメや漫画、バラエティ番組を通して日本へ興味を持ち、勉強していく中で通訳や設計者になりたいという夢を聞くことができました。テーマ③では挨拶の種類の多さやごみの分別の仕方の違いなど、参加者それぞれが、様々な角度から日本とインドネシアの交流について考えていることが感じられました。

■ 表彰式

表彰式	15:30～	「夢・日本体験賞」発表(5名)
-----	--------	-----------------

式次第

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、賞状授与
- 一、奨励賞授与
- 一、閉会の辞

<実行委員長 挨拶>



菊川実行委員長

<審査委員長 講評>



大塚審査委員長

<来賓挨拶>



全日本空輸株式会社
ジャカルタ支店
杉山 涼太 様

◆賞状授与◆



入賞者 5 名に菊川実行委員長より
賞状と目録が授与されました。

◆奨励賞授与◆



惜しくも入賞を逃した一次予選通過者 9 名には、
Verawati 実行副委員長より奨励賞が授与されました。

入賞者「夢・日本体験賞」

入賞者 5 名には、『夢・日本体験賞』(7 泊 8 日の日本体験旅行)を贈呈いたしました。



氏名	所属
アンドリアニ アンジャスマ プトリ ANDRIANI ANJASUMA PUTRI	UNIVERSITAS NEGERI SEMARANG
ハシナ サリ HASHINA SARI	PT. AWINA SINERGI INTERNATIONAL
キキ インドラワティ オクトヴィアニ KIKY INDRAWATI OKTOVIANI	—
メイリアニ MEILIANI	UNIVERSITAS DRAMA PERSADA
アデリネ アウレリア タン ADELINE AURELIA TAN	UNIVERSITAS BINA NUSANTARA

<講評>



審査委員
出題委員長

秋田 苑実

(学)共立育英会 共立日本語学院 教員

記念すべき第 5 回目の「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」で、本選会に進まれた 14 名それぞれが日頃の学習成果を十分に発揮し、ご自分の意見や体験を日本語で表現されていたことに感銘を受けました。今大会では特に、3 つあるスピーチテーマのどれかひとつに偏ることなく、各々の日本語体験を振り返り、より話したいテーマを選ばれていたことが印象的でした。

①のテーマ「日本語で難しいと思う文法(表現)について」では、ただ単にエピソードを語るだけではなく、難しいと感じたその文法(表現)の言外に隠された意味に至るまで考えを巡らせている方もいて大変驚きました。②のテーマ「日本語を学んだきっかけ」では、現在、学習を通して得た日本語力がどのように活かされているか、また、日本語学習を通して見つけた新たな目標にまで話は膨らみ、きっかけ自体は些細なことでも、日本語というツールがあることにより、皆さんの将来の選択肢が広がったことを知りました。③のテーマ「日本と自国とで大きくちがうところ」では、互いの国を比較した上で違いを受け入れ、いいところは取り入れようという国際人として必要な姿勢が見られ、とても頼もしく感じました。

このように、全体を通して、エピソードに終始するのではなく、内容の独創性、視野の広さ、考えの深さが見られた方が入賞されていたように感じます。語彙、表現、発音等の日本語力だけでは甲乙つけがたい部分があり、それだけ今大会のレベルが高かったと言えるでしょう。

入賞した 5 名の皆さんにとってはもちろん、残念ながら今回は入賞を逃してしまった皆さんにとっても、今大会は日頃の学習の成果を発揮できるよい機会となったことでしょう。今後も皆さんが日本語の勉強を続け、夢を叶え、両国の架け橋となってくださることを期待しています。